

「ウルル/Uluru」とは、オーストラリアにある有名な一枚岩のことです。ウルルは「ピチャンチャチャラ語」（アボリジニの言語）で、一般には「エアーズロック/Ayers Rock」というほうがよく知られています。私は行ったことがないのですが、昨年、附属小学校の5年生が家族で旅行した時に、その岩の麓で砂を採取してきました。

その砂はウルルと同じように真っ赤で、私は最初に肉眼で見た時は、オーストラリアで多産する「ボーキサイト」（アルミニウム鉱石の一種）が風化したものだと思いました。しかし顕微鏡で見ると、まったくちがってました。砂粒のほとんどは透明な石英や白い長石で、その周囲や内部に赤い物質が付着または夾雑されていたのです。ウルルの一枚岩が赤く見えるのは、砂岩に含まれる鉄分（酸化鉄）の色だそうです。その周辺の砂漠の砂が赤いのも、本来の砂の色ではなく、酸化鉄によってそのように見えていただけだったようです。時々見つかる黒い結晶は、恐らく磁鉄鉱でしょう。

砂の顕微鏡観察は実に面白いです。幸い私の勤務する研究所には、反射光でも透過光でも撮影できる、かなり高性能の顕微鏡（ツァイス製）があります。これからも、いろいろな土地の砂を詳しく調べてみたいと思いました。

(2023年/オーストラリア/×100反射光)

